

一般社団法人 **日本リウマチ学会**

第 21 回定時社員(会員)総会資料

第 1 号議案	2023 年度事業報告書承認の件
第 2 号議案	2023 年度決算報告書承認の件
第 3 号議案	2024 年度予算案承認の件
第 4 号議案	規則および内規の改定の件
第 4 号の 1 議案	役員選任内規の改定案
第 4 号の 2 議案	指導医の認定手続きに関する規則の改定案
第 4 号の 3 議案	リウマチ専門医研修制度に関する規則の改定案
第 4 号の 4 議案	教育施設における研修計画に関する規則の改定案
第 5 号議案	新評議員の選出承認の件
第 6 号議案	名誉会員・功労会員の選任承認の件
第 7 号議案	第 71 回学会長の選出の件
報告事項	2024 年度学会賞・奨励賞の受賞者について

2024 年 4 月 18 日

一般社団法人日本リウマチ学会

事業（会務）報告

1. 会員の状況

2024年3月1日現在の社員（会員）総数は9,791名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。注：（ ）内は、2023年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,791名 (9,853名)	-62名
種別内訳：		
一般会員	8,170名 (8,248名)	-78名
評議員	1,029名 (1,019名)	+10名
名誉会員	72名 (72名)	[国内名45名(45名) 国外27名(27名)]
功労会員	212名 (208名)	+4名
購読会員	335名 (306名)	+29名

年間会員増減：

(2023年3月1日～2024年2月29日)

新入会名	362名 (347名)	+15名
再入会	10名 (4名)	+6名
△ 退会者	391名 (348名)	+43名

(定款第9条第1号希望退会者219名、同条第2号による退会者185名)

2. 新理事会の発足

2023年4月24日に開催した第20回社員（会員）総会の承認をもって第11期理事会が発足し、次のような活動目標を掲げ活動を開始した。

- 1) 前理事会の将来構想委員会で策定した提言を具現化する。
- 2) 疾患ガイドライン、指針などの作成を主導して本学会でオーソライズし、「JCRの関節リウマチ管理ガイドライン」などのように学会名を冠に据えられるよう整備する。厚生労働省研究班、他学会等とも協力する。
- 3) 卒前・卒後教育を充実させるため、全大学に膠原病リウマチ学講座、診療科の設置を求め、本分野を志す若き人材を確保する。
- 4) ACR, APLAR, EULARと協調し、アジアをリードできる国際化体制を構築する。また、若手を中心とするJ-STAR委員会を充実し、JCRの各委員会のほか、国際関連学会との関係を活性化する。

3. 2023年度事業報告

1) 総会・学術集会

第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 田中 良哉

会期 : 2023年4月24日～4月26日

会場 : 福岡市

参加者 : 6,449名

(海外からの参加者 : 240名, 専攻医・初期臨床研修医・医学部学生:248)

2) 支部学術集会

第33回北海道・東北支部集会	9月30日, 10月1日	盛岡市	会長	仲 哲治
第33回関東支部集会	12月16日	横浜市	会長	持田勇一
第34回中部支部集会	9月15, 16日	松本市	会長	山崎 秀
第32回近畿支部集会	8月26, 27日	奈良市	会長	橋本 淳
第34回中国・四国支部集会	12月1, 2日	岡山市	会長	守田吉孝
第65回九州・沖縄支部集会	3月11, 12日	福岡市	会長	新納宏昭
第66回九州・沖縄支部集会	9月16, 17日	北九州市	会長	塚本 浩

3) 理事会

2023年度定例理事会を5回開催した。主要審議事項は次のとおり。

第1回理事会 (4月23日日曜)

定例評議員会・総会承認事項の審議 (事業報告, 決算・監査報告, 予算審議, 名誉会員・功労会員・評議員の選任, 第70回学会長選出), 第67回学術集会の実施概要, 新理事のCOI 申告書の審査結果, 2024年度診療報酬改定提案書, 男女若手共同参画奨励賞, JCR フロンティア研究者助成採択者, RA の精密医療の推進に資する研究推進助成, 各委員会の構成, 新理事会での検討事項等

第2回理事会 (5月21日日曜)

第67回学術集会報告, 第68回学術集会予算およびプログラム, 委員会活動計画, 全例市販後調査のための各薬剤ガイドの改訂, 臨床研究手法に関するWeb講演会, 慢性疾患の診療ガイドラインへの協力, 日本医療安全調査機構センター調査部会への推薦, 事務局就業規則の改訂等

第3回理事会 (9月3日日曜)

第67回学術集会決算, 第68回予算およびプログラム, 2025年学術集会会場のキャンセル料, 2023年度教育施設 (新規・継続) の認定, ICD11 告示分類の日本語訳, AIシンポジウムの開催, 帯状疱疹ワクチン調査対策委員会の設置と公費負担の要望, DPC等検討委員会の設置, J-STAR 国際小委員会委員の選出, ガイドライン策定規定, 2024年/2025年度学会賞選考委員の選出, 卒前教育への取り組み, APLAR 役員への立候補, リツキシマブの既存治療で効果不十分なループス腎炎の薬事承認, アダリムマブBS「CTNK」在宅自己注射の要望書, メディカルスタッフのためのライフステージに応じたRA患者支援ガイドの著作権譲渡, 日本医学会連合門田班への研究課題応募等

第4回理事会 (11月5日日曜)

第 68 回学術集会予算/プログラム, 寺子屋企画, 抄録集・学会運営・理事の定員数など, 男女若手共同参画委員会企画, 膠原病リウマチ内科領域の卒前教育に関する調査, JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム, ICD11 告示分類名の日本語の確定に向けた訳語の調整, RA の精密医療の推進に資する研究助成の採択者, 2023 年度登録ソノグラファーの承認, 専門医等人材育成に関わる要望書, 支部集会予算, 新専門医制度の近況等

第 5 回理事会 (2 月 4 日日曜)

第 68 回学術集会 (予算/プログラム/社交行事), 第 71 回(2027 年度) 学会長推薦, 2024 年度新評議員・名誉会員・功労会員の選出, 周術期抗リウマチ薬使用ガイドライン, ガイドラインに関する取り決め, 2023 年度決算及び 2024 年度予算案, 役員選任内規の改定, 2023 年度専門医と指導医(新規・更新)の認定/新専門医規則の改定, 2029 年・2030 年の学術集会会場, JCR2024 Excellent Abstract Award/Travel Award 受賞者, 疑義解釈に関するアンケートの HP 掲載, 日本リハビリテーション医学教育推進機構への入会, オンライン診療検討ワーキンググループ委員の推薦等

4) 学会誌

- (1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR) を年 6 回定期刊行, およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集) を年 1 回刊行した。
- (2) 編集委員 12 名を含む Transmitting Editor 合計 35 名で電子投稿査読システム Editorial Manager を活用。投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め, 医学倫理に則り掲載論文の質の向上に努めた。
- (3) 2022 年の Impact Factor (IF) は 2.2, 5 年 IF は 2.5 であった。
- (4) Modern Rheumatology Case Reports (MRCR) は編集委員 11 名を含む Transmitting Editor 合計 20 名による編集体制。2023 年 7 月に MRCR 7-2, 2024 年 1 月に MRCR 8-1 号を発行, それぞれ 33 編, 45 編の論文を掲載し, 創刊からこれまでに 400 編以上の論文を出版している。
- (5) MRCR へは国内外から 232 篇(うち USA 31 篇, トルコ 23 篇, インド 13 篇など海外から 31 カ国, 合計 138 篇)の論文が投稿され, 採択率は 30%程度となっている。
- (6) 2023 年 6 月末に初の Impact Factor が発表され, Impact Factor 2022 として 0.8, 5 年 IF は 0.5 を取得した。

5) 専門医制度

- (1) 2024 年度膠原病・リウマチ内科領域の新規基幹施設を募集し, 新たに 16 施設が専門医機構で認定された。膠原病・リウマチ内科領域研修の基幹施設は 262 施設となった。
- (2) 専攻医症例登録システム (リウマチ版 J-OSLER) を 2023 年 4 月から運用開始した。
- (3) 学会認定のリウマチ専門医教育施設として, 新規 14 施設, 更新 216 施設を認定した。2023 年 9 月 1 日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は 607 施設 (前年比+6 施設) となった。
- (4) 2024 年 1 月に第 37 回リウマチ専門医資格認定試験を Computer Based Training

(CBT)方式で実施した。受験者は166名で合格者は139名(合格率83.73%)であった。

- (5) 2023年3月1日付けで専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は5,249名(前年比+50名),指導医は2,176名(同+96名)である。特に指導医は2016年度の規則改定以降着実に増加している。
- (6) 小児科を基本領域とする医師が膠原病・リウマチ領域の機構専門医を取得できるよう整備基準,カリキュラムを改訂し,日本内科学会を通じて専門医機構へ提出した。
- (7) 膠原病・リウマチ専門医の育成を目指し,特命副理事長を任命して卒前卒業教育ワーキンググループを設置し,全国の大学医学部を対象にした膠原病リウマチ内科領域の専門講座の設置状況,専門医の配置ならびに教育環境などのアンケート調査を実施した。

6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) JCR2023(福岡)でACR session「Targeted Therapies in RA and Scleroderma」,EULAR session「When Imaging meets clinical evaluation in RMDs: artifacts or reality?」,APLAR session「Science of Rheumatology - an Asia Pacific Accent」を開催した。
- (2) 海外演者を対象とした「Travel Award」では,23カ国・地域から83名101演題が登録され,JCR国際委員会と国際委員会サブコミッティによる審査により45演題を選出した。また海外若手医師・研究者の学術集会参加サポートを目的として「APLAR-JCR Award」および「Travel Support」を設け,APLAR-JCR-Awardに7名,Travel Supportに26名を選出し,それぞれの選出者にトラベルサポートとして1,000米ドルを支弁した。
- (3) JCR会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞(ICW Excellent Abstract Award)は,対象演題108演題から34演題を選出した。
- (4) 「JCR-EULAR若手リウマチ医トレーニングプログラム2023」を企画し,短期2名を選出した。
- (5) APLAR 2023(チェンマイ)に演題投稿した45歳未満のJCR会員の中から国際委員会での審査により20名を選出し,受賞者へは「APLAR2023 Excellent Abstract Award on JCR」として賞状と賞金が贈られた。
- (6) 7月27日(木)~29日(土)にJCR国際育成セミナー2023(JCR International School 2023)を軽井沢プリンスホテルで開催した。
- (7) 11月10~15日にサンディエゴで開催されたACR2023期間中にJCR/ACRジョイントセッション「Go above and beyond, from molecular to clinical」を開催し3名にご講演いただいた。またACRのほかAPLAR2023(12/7~11,チェンマイ)にJCRブースを設置し,学会誌ならびにJCRの広報活動を積極的に行った。

7) 教育研修会等の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として,4月23日にアニュアルコースレクチャーを開催しオンデマンドで配信した。また8月20日に東京,12月3日に大阪で全国中央教

育研修会を開催した。

- (2) 第10回ベーシックリサーチカンファレンスを11月24,25日に富士ソフトアキバプラザ(東京秋葉原)で開催した。
- (3) 関節超音波検査初級講習会を6月4日に東京,12月24日に大阪で開催した。またオンライン(Zoom)講習会も9月29日と1月14日の2回開催した。登録ソノグラファーは2022年度に54名を新規登録し,157名の資格更新を行った。
- (4) 臨床研究合宿を7月7~9日の3日間,クロスウェーブ府中で開催した。
- (5) 「AI技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を1月21日にハイブリッドで開催した。

8) 研究助成事業

- (1) 厚生労働省より「アレルギー情報センター事業」の付託を受け,保健,福祉関係者および医療従事者と対象とした「リウマチ相談員養成研修会」を12月3日に大阪で開催した。
- (2) 「関節リウマチの精密医療の推進に資する研究推進プログラム」を公募し,応募された基礎部門18題から8題,臨床部門14題から5題を選出し,各申請者へ研究助成金を支弁した。
- (3) 旭化成ファーマ株式会社の助成により「JCRフロンティア研究者助成プログラム」を新たに開始。2022年度は「自己免疫疾患に合併した腎障害の病因・病態・進展メカニズムに関する研究」を研究テーマとして公募した。

9) その他事業

- (1) リツキシマブのSLE/ループス腎炎におけるエビデンス構築に向けた成果により,8月23日にリツキシマブの既存治療で効果不十分なループス腎炎の薬事承認を取得した。
- (2) 「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に要望書を提出していたミコフェノール酸モフェチルの全身性強皮症に伴う間質性肺疾患の公知申請の事前評価が終了し,2月14日に公知申請による承認を取得した。
- (3) JCRが作成または作成に参画するガイドラインの取り扱いを定めた。JCRにアドホック委員会・小委員会を設置し,その委員長を中心に作成し,まずはガイドライン委員会に提出してガイドライン委員会からパブリックコメントを募り,その後理事会で承認することとする。作成したガイドラインは,「日本リウマチ学会・・・ガイドライン」あるいは「JCR・・・ガイドライン」と表記し,編集は「一般社団法人日本リウマチ学会」と明記して責任の所在,あるいは学会でオーソライズされたものであるということを明確にすることとする。JCRが一部のみ参加し,殆どが他学会の会員で構成して作成されるガイドラインについては,作成する時点で双方の学会で話し合っ決めて決めることとした。

4. 2024年度事業案

1) 総会・学術集会

- (1) 高木理彰会長のもと,2024年4月18日(木)~20日(土)に第68回日本リウマチ

学会総会・学術集会を神戸コンベンションセンターで開催する。

- (2) 川上純会長のもと、第69回日本リウマチ学会総会・学術集会（2025年4月24日～26日、福岡コンベンションセンター）の準備を進める。

2) JCR 学会誌

- (1) MR論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) 質の高い出版を維持し年6号発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け、MR Supplementとして年1号をオンラインで発行する。
- (4) 国際学会でMRおよびMRCRのプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) 著者、査読者、編集も含め、ジャーナルへの投稿出版に関わる出版倫理について、教育および周知に努める。

3) 専門医制度

- (1) 学会専門医制度の管理・検討・改訂、指導医の新規認定・資格更新業務、教育研修会の認定業務、他の学会・日本専門医機構との調整を引き続き実施する。
- (2) 膠原病・リウマチ内科専門医の育成を目指し、卒前・卒後教育を充実させ、全大学に膠原病リウマチ学講座、診療科の設置に向けた活動を行う。
- (3) 膠原病・リウマチ内科領域専門医への移行に向け、更新に必要な単位数などを規則として定め、認定と更新の必要な要件をまとめる。
- (4) 単位管理アプリの運用を開始する。

4) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 国際化の推進にあたり学術集会での英語セッション枠を増やし、ICW, ACR, EULAR, APLAR, TREGセッションを継続する。会員を対象としたICW Excellent Abstract Award, 海外の若手研究者を対象としたJCR Travel Awardを引き続き実施する。
- (2) APLAR2024 シンガポール（2024年8月21日- 25日）で優秀演題賞を設け、若手医師のAPLARをはじめとした国際学会への参加をうながす。
- (3) 新たに設置したJ-STAR委員会を通じ、国内外の若手研究者と様々なツールで積極的に交流を図りながら、将来的なリウマチ学発展への貢献を目指す活動を推進する。またJ-STAR委員会をEULARの若手組織であるEMEUNET, 同じくAPLARの若手組織であるAYRのカウンタパートとして位置づけ、海外学術団体との交流活動を活発化させる。
- (4) 若手リウマチ医の英語プレゼンテーション能力の向上を目的としてリウマチ学の世界的トップリーダーを招いて「JCR世界トップ寺子屋」開催する。また国際育成セミナーも例年通り開催する。

5) その他

将来構想委員会の下記提言に関し、各委員会で引き続き検討を行っていく。

- (1) リウマチ専門医の育成のためには、大学におけるリウマチ・膠原病領域の講座を増やすことを目指すべきであり、リウマチ・膠原病診療に対するインセンティブの確立やリウマチ・膠原病医療の保険診療報酬への反映するよう働きかけていくこと
- (2) 指導医が不足している地域の大学や中核医療機関に専門医を増加させるよう働きかけていくこと
- (3) リウマチ専門医と膠原病・リウマチ内科領域専門医の位置づけを明確にし、両専門医の間に差をつけないような制度設計を構築すること
- (4) 会員数、評議員数の少ない地域においては会員数を増加させる対策をたて、評議員数の適正化について議論すること
- (5) 基礎研究をさらに発展させ国際的なプレゼンスを高めるため、ベーシックリサーチカンファレンスを基礎学術集会への移行を目指すこと
- (6) リウマチ相談員を育成し、制度化に向けて関係団体と検討すること。
- (7) 海外の若手との交流、育成を図るうえで APLAR の AYR や EULAR の EMEUNET のような国際若手部会を奨励すること
- (8) 健全な財務基盤の構築に向け、学術集会を始めとする支出の適正化を進めること

決算報告書

第 15 期

自 令和5年3月 1日

至 令和6年2月29日

一般社団法人 日本リウマチ学会

東京都港区浜松町2丁目9番6号

正味財産増減計算書
自 令和5年3月1日 至 令和6年2月29日

(単位:円)

科目	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	増減(2023年-2022年)
I.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	121,705,000	120,981,000	-724,000
事業収益			0
広告料収入	25,828,000	26,694,800	866,800
諸制度収入	34,995,000	31,626,000	-3,369,000
学術集会収入	343,455,677	330,385,713	-13,069,964
支部収入	176,128,345	167,217,452	-8,910,893
教育研修会収入	27,356,000	28,149,500	793,500
国際関連事業収入	1,920,000	2,100,000	180,000
経常収益計	731,388,022	707,154,465	-24,233,557
(2)経常費用			0
事業費	647,300,799	635,038,293	-12,262,506
学術集会経費	332,060,289	320,913,019	-11,147,270
学術集会関連経費	4,283,617	4,487,799	204,182
関連学会費	2,508,233	2,465,800	-42,433
委員会議費	2,894,453	3,360,213	465,760
国際関連事業費	7,026,272	7,034,258	7,986
諸制度運営費	12,137,881	26,135,885	13,998,004
諸制度運営費	11,132,438	12,127,963	995,525
教育研修費	35,797,575	52,752,057	16,954,482
英文誌経費	48,398,493	24,864,962	-23,533,531
情報通信経費	12,115,889	12,146,935	31,046
調査研究費	2,867,992	2,717,945	-150,047
支部経費	164,932,130	154,157,703	-10,774,427
保守管理費	8,337,418	8,914,309	576,891
支払手数料	2,562,642	2,524,899	-37,743
雑費	245,477	434,546	189,069
医学用語集	0	0	0
管理費	103,976,588	88,899,811	-15,076,777
給料手当	14,376,112	15,917,386	1,541,274
雑給	51,744	4,551,331	4,499,587
賞与	14,015,300	15,080,050	1,064,750
通勤費	1,664,522	1,846,650	182,128
紹介手数料	0	1,491,875	1,491,875
法定福利費	8,340,054	9,415,528	1,075,474
福利厚生費	121,927	440,783	318,856
報酬	2,847,146	2,795,298	-51,848
旅費交通費	32,638	39,382	6,744
通信運送費	3,675,852	2,741,030	-934,822
印刷費	1,246,795	541,288	-705,507
消耗品費	2,388,980	3,825,081	1,436,101
接待交際費	33,000	33,000	0
保険料	2,542,160	2,418,050	-124,110
賃借料	14,713,056	14,713,060	4
水道光熱費	630,792	650,090	19,298
諸管理費	3,670,689	3,395,697	-274,992
租税公課	32,719,579	5,145,860	-27,573,719
広告宣伝費	0	3,066,800	3,066,800
減価償却費	906,242	791,572	-114,670
経常費用計	751,277,387	723,938,104	-27,339,283
当期経常増減額	-19,889,365	-16,783,639	3,105,726
経常外増減の部			0
(1)経常外収益			0
寄付金・助成金	4,625,450		-4,625,450
雑収入	14,538,934	20,629,283	6,090,349
移転補償料			0
特別利益			0
経常外収益計	19,164,384	20,629,283	1,464,899
(2)経常外費用			0
雑損損失	0	819,516	819,516
固定資産減損損失			0
特別損			0
APLAR積立準備基金繰入			0
経常外費用計	0	819,516	819,516
当期経常外増減額	19,164,384	19,809,767	645,383
当期一般正味財産増減額	-724,981	3,026,128	3,751,109
一般正味財産期首残高	565,404,166	564,679,185	-724,981
一般正味財産期末残高	564,679,185	567,705,313	3,026,128
II.指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III.基金増減の部			0
基金受入額			0
基金返還額			0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	120,000,000	120,000,000	0
基金期末残高	120,000,000	120,000,000	0
IV.正味財産期末残高	684,679,185	687,705,313	3,026,128
	750,552,406	727,783,748	
	751,277,387	724,757,620	
	-724,981	3,026,128	

財 産 目 録

令和6年2月29日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
資産の部			
1.流動資産			
現金預金	750,927,115		
普通預金	629,347,571		
みずほ銀行/虎ノ門支店	(6,600,253)		
三菱UFJ銀行/虎ノ門支店	(259,676,531)		
三菱UFJ銀行/第67回学術集會口	(0)		
三菱UFJ銀行/第68回学術集會口	(191,471,450)		
三菱UFJ銀行/学会口(事前参加登録)	(0)		
三菱UFJ銀行/抄録口	(0)		
郵便貯金	(53,218,822)		
郵便振替預金(00140)	(100,934,890)		
郵便振替預金(00170)	(17,445,625)		
支部預金	(121,579,544)		
未収金 クレジットカード 他	(4,702,000)		
前払金	(400,000)		
前払費用	(1,104,048)		
仮払金	(19,122,263)		
流動資産合計		776,255,426	
2.固定資産			
基本財産			
三井住友銀行/浜松町支店	120,000,000		
基本財産合計	120,000,000		
特定資産			
三菱UFJ銀行/学術集會積立金	(160,800,000)		
三菱UFJ銀行/APLAR積立金	(69,905,430)		
特定資産合計	230,705,430		
その他固定資産			
建物附属設備・器具備品・ソフトウェア	4,659,581		
敷金	10,036,800		
その他固定資産合計	14,696,381		
固定資産合計		365,401,811	
資産合計			1,141,657,237

科 目	金 額		
負債の部			
1.流動負債			
未払金	30,000		
未払法人税等	70,000		
前受金	6,958,000		
2024~2028年度会費等	(938,000)		
指導医登録料 120名	(2,400,000)		
専門医登録料 137名	(2,740,000)		
その他 研修会共催金等	(880,000)		
預り金 源泉所得税・健康保険・厚生年金	491,284		
仮受金 総会学術集會等	215,697,210		
流動負債合計		223,246,494	
1.固定負債			
学術集會準備基金	160,800,000		
APLAR積立準備基金	69,905,430		
固定負債合計	230,705,430		
負債合計		453,951,924	
正味財産			687,705,313

財務諸表に対する注記

1.重要な会計方針

資産の評価基準及び評価方法

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品は最終仕入原価法

(2)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 法人税法の規定による定率法
但し、平成10年4月1日以降取得の建物については定額法

無形固定資産 法人税法の規定による定額法

(3)消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	資産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000
特定資産	特定資産計	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000

3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	資産の種類	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち基金からの 充当額)	(うち負債に 対応する 額)
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000	0
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000	0
特定資産	特定資産計	0	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000	0



費目	内容	単価	数量	金額	
第67回 日本リウマチ学会総会・学術集会 (学会収入)					
1. 参加者会費 (有料参加者5,837名)				100,436,000	
事前参加登録	一般会員	17,000	2,982	50,694,000	
	一般 (非会員)	20,000	1,286	25,720,000	
	コメディカル・大学院生	4,000	263	1,052,000	
	コメディカル・大学院生 (非会員)	5,000	113	565,000	
	専攻医	0	193	0	
	初期臨床研修医・医学部学生	0	4	0	
	当日参加登録	一般会員	20,000	481	9,620,000
		一般 (非会員)	20,000	615	12,300,000
		コメディカル・大学院生	5,000	46	230,000
		コメディカル・大学院生 (非会員)	5,000	51	255,000
専攻医		0	47	0	
初期臨床研修医・医学部学生	0	4	0		
2. 懇親会参加費収入				0	
	全員懇親会参加費			0	
3. 単位手数料収入				968,000	
	日本整形外科学会	1,000	968件	968,000	
4. 抄録集販売収入				525,000	
	和文抄録集販売	3,000	175件	525,000	
5. 企業展示出展料				43,093,513	
	特設ブース	3,300,000	12社	39,600,000	
	基礎 (小間)	330,000	9社	2,970,000	
	書籍展示 (2社)	523,513	1式	523,513	
6. 広告料収入				2,697,200	
	抄録集掲載料	1,237,500	1式	1,237,500	
	ハンディプログラム掲載料	689,700	1式	689,700	
	スマートフォンアプリ広告掲載料	110,000	7社	770,000	
7. 共催セミナー収入 (57枠)				174,570,000	
モーニングセミナー	大A会場クラス	3,080,000	2	6,160,000	
	大B会場クラス	2,860,000	2	5,720,000	
	中会場クラス	2,200,000	5	11,000,000	
	小会場クラス	1,320,000	2	2,640,000	
	ランチョンセミナー	大A会場クラス	3,080,000	6	18,480,000
		大B会場クラス	2,860,000	9	25,740,000
		中会場クラス	2,200,000	19	41,800,000
		小会場クラス	1,320,000	7	9,240,000
	イブニングセミナー	大A会場クラス	3,080,000	3	9,240,000
		大B会場クラス	2,860,000	6	17,160,000
中会場クラス		2,200,000	9	19,800,000	
小会場クラス		1,320,000	2	2,640,000	
	特別共催セミナー	4,950,000	1	4,950,000	
8. 寄附金収入				8,000,000	
	日本製薬団体連合会	6,000,000	1	6,000,000	
	社会医療法人 陽明会 小波瀬病院	500,000	1	500,000	
	福岡コンベンション開催助成金	1,500,000	1	1,500,000	
9. 雑収入				96,000	
	参加登録取消料	36,000	1	36,000	
	ペリトランステスト入金	60,000	1	60,000	
10. 繰入金				0	
	学術集会繰入基金	0	1	0	
収入合計				330,385,713	

費目	金額
第67回 日本リウマチ学会総会・学術集会 (学会支出)	
I. 事前準備費	107,221,089
1. 人件費	33,357,096
本部事務局費	25,547,096
サポート準備室人件費	7,810,000
2. 経費	73,863,993
印刷・制作物関係費	36,380,440
情報発信 (ホームページ) 関連費	2,068,925
旅費交通費	2,960,400
演題処理関係費	7,590,000
プログラム関係費	0
通信運送費	13,750,232
備品・消耗品費	300,731
外注費	0
諸経費	10,813,265
II. 当日運営費	190,423,043
1. 人件費	15,105,750
2. 旅費交通費	12,520,729
3. 会場費	32,786,107
4. 機材・備品費	60,366,405
機材・備品費	49,897,705
その他機材費	6,221,600
受付用システム導入費 (クレジット・共催セミナー・事前登録)	4,247,100
5. 看板装飾費	7,101,655
6. 展示関係費	6,083,440
7. 招聘関係費 (非会員招聘費用、トラベルアワード、シンポジウム費用招聘費に該当)	32,758,968
8. 会合関係費 (全員懇親会、ドリンクサービス、会長企画招宴費用含む)	12,959,722
9. ハンズオンセミナー関係費	1,502,369
10. その他	9,237,898
III. 事後処理費	5,830,042
1. 人件費	220,000
2. 旅費交通費	0
3. 印刷費 (礼状等)	689,260
4. 通信運送費	0
5. 公認会計士監査料 (会計監査料)	275,000
6. 支払手数料	435,018
7. その他諸経費 (クレジット精算手数料)	4,210,764
8. 雑損失	0
IV. 業務委託費	17,438,845
1. 進行管理費	17,438,845
V. 学術集会準備基金	0
1. 学術集会準備金	
2. 若手育成 (ICW, Travel Award)	
VI. 剰余金	9,472,694
支出合計	330,385,713


独立監査人の監査報告書

令和5年8月15日

第67回日本リウマチ学会総会・学術集会
会長 田中 良哉 殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士

小見山 延子 

監査意見

私は、第67回日本リウマチ学会（以下法人）総会・学術集会収支報告書（会期令和5年4月24日から令和5年4月26日開催。以下、収支報告書）の監査を行った。

私は、上記の収支報告書は、第67回日本リウマチ学会総会・学術集会の収支の状況を、全ての重要な点において、学術集会事務運営細則に準拠して作成されているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「収支計算書の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

収支計算書作成の基礎並びに配布及び利用制限

収支報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第67回日本リウマチ学会総会・学術集会のために、学術集会事務運営細則に準拠して作成されており、それ以外の目的には適合しないことがある。このことは、私の意見に影響を及ぼすものではない。

本報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第67回日本リウマチ学会総会・学術集会のみを利用者として想定しており、一般社団法人日本リウマチ学会及び第67回日本リウマチ学会総会・学術集会以外に配布及び利用されるべきものではない。

収支計算書に対する会長の責任

会長の責任は、学術集会事務運営細則に準拠して収支報告書を作成することにある。また、収支計算書の作成に当たり適用される会計の基準が状況に照らして受入可能なものであるかどうかについて判断することにある。会長の責任には、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない収支報告書を作成するために会長が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

収支計算書の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体として収支計算書に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から収支計算書に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、収支計算書の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 収支計算書の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 会長が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに会長によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 会長が入手した監査証拠に基づき、重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性に関する収支計算書の注記事項が適切でない場合は、収支計算書に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。
- ・ 収支計算書の表示及び注記事項が、学術集會事務運営細則に記載された会計の基準に準拠しているかどうかを評価する。

利害関係

第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集會と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

令和6年3月12日

一般社団法人日本リウマチ学会
理事長 田中 良哉 殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士 小見山 延之 

監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本リウマチ学会（以下「法人」という。）の令和5年3月1日から令和6年2月29日までの第15期事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相

違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、

また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

2024年度予算書(案)

(単位:円)

科目	予算案 (2023年度)	実績 (2023年度)	予算案 (2024年度)
I.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	116,424,000	120,981,000	119,774,000
事業収益			
広告料収入	21,300,000	26,694,800	24,100,000
諸制度収入	31,180,000	31,626,000	31,000,000
学術集會収入	333,487,000	330,385,713	332,630,000
支部収入	116,000,000	167,217,452	116,000,000
教育研修會収入	23,780,000	28,149,500	22,200,000
国際関連事業収入	3,600,000	2,100,000	0
A 経常収益計	645,771,000	707,154,465	645,704,000
(2)経常費用			
事業費			
学術集會経費	333,487,000	320,913,019	298,755,000
学術集會関連経費	4,600,000	4,487,799	4,500,000
関連学會	2,400,000	2,465,800	2,500,000
委員會	6,322,000	3,360,213	4,000,000
會議費	8,300,000	7,034,258	8,300,000
国際関連事業費	25,700,000	26,135,885	38,400,000
諸制度運営費	14,180,000	12,127,963	14,800,000
教育研修費	46,408,000	52,752,057	41,200,000
英文誌経費	17,920,000	24,864,962	42,450,000
情報通信経費	10,900,000	12,146,935	10,900,000
調査研究費	19,800,000	2,717,945	3,200,000
支部経費	116,000,000	154,157,703	116,000,000
保守管理費	6,912,000	8,914,309	8,775,000
支払手数料	2,700,000	2,524,899	3,000,000
雑費		434,546	
医学用語集			
管理費			
給料手当	15,000,000	15,917,386	18,500,000
雑賞	1,200,000	4,551,331	1,500,000
賞	15,000,000	15,080,050	17,000,000
紹介手数料	1,000,000	1,491,875	1,200,000
通勤費	2,100,000	1,846,650	2,000,000
法定福利費	7,000,000	9,415,528	8,600,000
福利厚生費	120,000	440,783	500,000
報酬	2,935,000	2,795,298	2,865,000
旅費交通費	100,000	39,382	50,000
通信運送費	3,598,000	2,741,030	3,300,000
印刷費	1,050,000	541,288	980,000
消耗品費	1,700,000	3,825,081	3,900,000
接待交際費	50,000	33,000	60,000
保険料	2,500,000	2,418,050	2,800,000
賃借料	16,100,000	14,713,060	16,200,000
水道光熱費	640,000	650,090	680,000
諸管理費	5,084,000	3,395,697	5,259,000
租税公課	5,180,000	5,145,860	5,180,000
広告宣伝費		3,066,800	
減価償却費	1,500,000	791,572	3,200,000
予備	3,000,000		6,530,000
B 経常費用計	700,486,000	723,938,104	697,084,000
当期経常増減額	-54,715,000	-16,783,639	-51,380,000
経常外増減の部			
(1)経常外収益			
寄附金収入			
再開発関連収入	14,415,000	20,629,283	16,400,000
助成金収入	22,800,000		19,980,000
積立金取崩収入			
学術集會等積立取崩	3,000,000		15,000,000
APLAR積立金取崩	15,000,000		
前期正味財産繰入			
前期正味財産繰入			
C 経常外収益計	55,215,000	20,629,283	51,380,000
(2)経常外費用			
法人税等			
雑損		19,516	
固定資産減損損失		800,000	
特別損	500,000		
APLAR積立準備基金繰入			
D 経常外費用計	500,000	819,516	0
当期経常外増減額		19,809,767	
当期一般正味財産増減額		3,026,128	
一般正味財産期首残高		564,679,185	
一般正味財産期末残高		567,705,313	
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 基金増減の部			
基金受入額			
基金返還額			
当期基金増減額			
基金期首残高		120,000,000	
基金期末残高		120,000,000	
IV 正味財産期末残高		687,705,313	
収入合計(A+C)	700,986,000	727,783,748	697,084,000
支出合計(B+D)	700,986,000	724,757,620	697,084,000
差額	0	3,026,128	0

第68回 日本リウマチ学会総会・学術集会予算

●収入の部

項目	単価	数量	金額	備考
1 参加費等			111,984,000	有料5,837名
【事前参加登録】		4,841名		
会員／一般	@18,000×	2,982名	53,676,000	
非会員／一般・海外含む	@24,000×	1,286名	30,864,000	
会員／コメディカル・大学院生	@4,000×	263名	1,052,000	
非会員／コメディカル・大学院生	@5,000×	113名	565,000	
専攻医／初期臨床研修医・医学部学生	@0×	197名	0	
【当日参加登録】		1,244名		
会員／一般	@22,000×	481名	10,582,000	
非会員／一般・海外含む	@24,000×	615名	14,760,000	
会員／コメディカル・大学院生	@5,000×	46名	230,000	
非会員／コメディカル・大学院生	@5,000×	51名	255,000	
専攻医／初期臨床研修医・医学部学生	@0×	51名	0	
2 懇親会参加費収入	@1,000×	600名	600,000	
3 単位手数料収入	@1,000×	966件	966,000	
4 抄録集販売収入	@3,000×	175冊	525,000	
5 企業展示出展料			42,310,000	
特設展示出展料	@3,300,000×	12社	39,600,000	
基礎小間出展料	@330,000×	7小間	2,310,000	
書籍展示	@400,000×	1式	400,000	
6 広告料			3,465,000	
【抄録集】				(12月20日時点)
表4	@440,000×	1社	440,000	
表3	@385,000×	1社	385,000	
表2	@352,000×	1社	352,000	
グラフィA 1 p (カラー)	@330,000×	1社	330,000	
後付け1 p (モノクロ)	@110,000×	0社	0	
後付け1/2 p	@60,500×	2社	121,000	
【ハンディプログラム】				(12月20日時点)
表4	@363,000×	1社	363,000	
表3	@308,000×	1社	308,000	
表2	@286,000×	1社	286,000	
グラフィA 1 p (カラー)	@253,000×	0社	0	
後付け1 p (モノクロ)	@90,200×	0社	0	
後付け1/2 p	@40,700×	0社	0	
【その他】				
アプリ広告料	@110,000×	8社	880,000	
7 各種セミナー共催金		72社	160,380,000	(12月20日時点)
【モーニングセミナー】		15セッション		
大A会場 (800席以上)	@3,080,000×	0セッション	0	
大B会場 (500席以上～800席未満)	@2,860,000×	3セッション	8,580,000	
中会場 (250席以上～500席未満)	@2,200,000×	8セッション	17,600,000	
小会場 (250席未満)	@1,320,000×	4セッション	5,280,000	
【ランチョンセミナー】		39セッション		
大A会場 (800席以上)	@3,080,000×	5セッション	15,400,000	
大B会場 (500席以上～800席未満)	@2,860,000×	11セッション	31,460,000	
中会場 (250席以上～500席未満)	@2,200,000×	13セッション	28,600,000	
小会場 (250席未満)	@1,320,000×	10セッション	13,200,000	
【イブニングセミナー・他】		18セッション		
大A会場 (800席以上)	@3,080,000×	0セッション	0	
大B会場 (500席以上～800席未満)	@2,860,000×	5セッション	14,300,000	
中会場 (250席以上～500席未満)	@2,200,000×	10セッション	22,000,000	
小会場 (250席未満)	@1,320,000×	3セッション	3,960,000	
8 寄付金			12,400,000	
日本製薬団体連合会			5,400,000	67回大会近似値
公益財団法人中内力コンベンション振興財団助成金	@5,000,000×	1式	5,000,000	想定金額
Meet in Kobe (ポートピア'81記念基金補助金)	@2,000,000×	1式	2,000,000	想定金額
合計			¥332,630,000	

(単位：円)

●支出の部

項目	数量	金額	備考
1. 事前準備費		69,551,806	
1) 事務局人件費	一式	20,262,500	
2) 業務事務費	一式	5,615,250	
3) 事務局諸経費・発送費等	一式	5,378,442	
4) 事前参加登録システム関係費	一式	7,697,995	
5) 演題登録システム	一式	1,450,000	
6) 査読システム	一式	585,000	
7) 備品・消耗品費	一式	240,000	
8) 印刷・制作物関係費	一式	23,399,650	
9) ホームページ	一式	1,877,969	
10) 演題処理関係費	一式	2,945,000	
11) 旅費・交通費	一式	100,000	
2. 当日運営費		203,903,981	
1) 会場借り上げ費	一式	52,729,156	
2) 会場付帯設備費	一式	17,023,155	
3) 機材費	一式	36,414,550	
4) 看板・受付・PC受付	一式	5,021,000	
5) 機器展示・ポスター会場	一式	5,556,700	
6) 機器展示設営	一式	5,557,000	
7) 受付システム	一式	4,029,200	
8) 共催セミナー発券システム	一式	1,637,000	
9) 運営人件費	一式	11,671,000	
10) 印刷・制作物費	一式	1,630,800	
11) 備品等	一式	1,375,000	
12) 招聘関係費	一式	40,461,420	
13) 飲食・会合費	一式	13,093,000	
14) 宿泊・交通費	一式	3,820,000	
15) 運営諸経費	一式	2,725,000	
16) 託児運営費	一式	1,160,000	
3. 事後処理費		576,200	
4. 業務委託費		11,773,279	
小計		285,805,266	
消費税 (10%)		12,950,607	一部除く
中計		298,755,873	
予備費		33,874,127	
合計		¥332,630,000	

受益者負担率	34%
--------	-----

役員選任内規の改定案	
【現 行】	【改定案】
<p>(役員の数)</p> <p>第3条 理事の数は、定款第13条第1号に定める定員数の範囲内で19名以内とする。ただし、19名の理事選出に当たっては、選挙による選出(以下「選挙理事」という。)17名、推薦による選出(以下「推薦理事」という。)2名以内とする。</p> <p>(中略)</p> <p>(理事候補者の区分選出数)</p> <p>第18条 理事候補者の区分選出数は、全国選出理事候補10名及び支部選出理事候補7名とする。</p> <p>2. 支部選出理事候補者は、本会6支部に各1名とする。ただし、関東支部にあつては2名とする。</p> <p>(中略)</p> <p>(理事選任候補者の決定)</p> <p>第23条 全国選出理事候補者は、選挙得票数の順位により原則として上位10名を理事選任候補者とする。</p> <p>第24条 支部選出理事候補者は、各支部のそれぞれ最高得票者の1名を理事選任候補者とする。ただし、関東支部については、上位2名とする。</p>	<p>(役員の数)</p> <p>第3条 理事の数は、定款第13条第1号に定める定員数の範囲内で<u>21</u>名以内とする。ただし、<u>21</u>名の理事選出に当たっては、選挙による選出(以下「選挙理事」という。)19名、推薦による選出(以下「推薦理事」という。)2名以内とする。</p> <p>(中略)</p> <p>(理事候補者の区分選出数)</p> <p>第18条 理事候補者の区分選出数は、全国選出理事候補<u>11</u>名及び支部選出理事候補<u>8</u>名とする。</p> <p>2. 支部選出理事候補者は、本会6支部に各1名とする。ただし、関東支部にあつては<u>3</u>名とする。</p> <p>(中略)</p> <p>(理事選任候補者の決定)</p> <p>第23条 全国選出理事候補者は、選挙得票数の順位により原則として上位<u>11</u>名を理事選任候補者とする。</p> <p>第24条 支部選出理事候補者は、各支部のそれぞれ最高得票者の1名を理事選任候補者とする。ただし、関東支部については、上位<u>3</u>名とする。</p> <p><u>附則(2024年4月18日)</u> <u>この内規の改定は、2024年度社員総会の承認を得て、第12期役員の選任から適用する。</u></p>

8. 専門医制度規則	
指導医の認定手続きに関する規則の改定案	
【現 行】	【改定案】
<p>(申請の手続き)</p> <p>第16条 指導医の認定を申請するには、次の申請書類を専門医制度委員会に提出しなければならない。</p> <p>① 指導医認定申請書</p> <p>② 履歴書</p> <p>③ 業績目録</p> <p>④ 教育施設（準ずる診療施設）勤務証明書。</p>	<p>(申請の手続き)</p> <p>第16条 指導医の認定を申請するには、次の申請書類を専門医制度委員会に提出しなければならない。</p> <p>① 指導医認定申請書</p> <p>② 履歴書</p> <p>③ 業績目録</p> <p>④ 教育施設（準ずる診療施設）勤務証明書。</p> <p>⑤ <u>推薦状（研修期間中の教育施設教育責任者または研修管理委員会委員長の推薦状）</u></p> <p><u>附則（2024年4月18日）</u></p> <p><u>1 この規則の改定は、2024年度定時社員総会で承認を受け、同年5月1日から施行する。</u></p>

8. 専門医制度規則	
7) リウマチ専門医研修制度に関する規則の改定案	
【現 行】	【改定案】
<p>(雑則)</p> <p>第5条 申請手続きについては別に定める申請書類に手数料を添えて専門医資格認定委員会に提出する。</p> <p>2 専門医資格維持については専門医機構が示す規則に則って設定する。</p> <p>3 本規則の定めるもののほかは現規則の定めるところによる。</p>	<p>(雑則)</p> <p>第5条 申請手続きについては別に定める申請書類に手数料を添えて専門医資格認定委員会に提出する。</p> <p>2 専門医資格維持については専門医機構が示す規則に則って設定する。</p> <p>3 <u>2021年度以降に内科の研修を開始した専攻医が学会専門医を取得した場合は、専門医機構認定膠原病・リウマチ内科領域専門医への移行ができない。</u></p> <p>4 本規則の定めるもののほかは現規則の定めるところによる。</p> <p><u>附則 (2024年4月18日)</u></p> <p><u>1 この規則の改定は、2024年度定時社員総会で承認を受け、同年5月1日から施行する。</u></p>

8. 専門医制度規則	
第7章 教育施設における研修計画に関する規則の改定案	
【現 行】	【改定案】
<p>(研修内容)</p> <p>第22条 教育施設研修期間中に研修カリキュラムによる診療経験として次のものを含める。</p> <p>①入院患者はリウマチ性疾患、原則として50症例（関節リウマチ／若年性特発性関節炎15症例以上を含む）以上を受持ち、その診療を行うこと。</p>	<p>(研修内容)</p> <p>第22条 教育施設研修期間中に研修カリキュラムによる診療経験として次のものを含める。</p> <p>①入院患者はリウマチ性疾患、原則として40症例（関節リウマチ／若年性特発性関節炎10症例以上を含む）以上を受持ち、その診療を行うこと。</p> <p><u>附則（2024年4月18日）</u></p> <p><u>1 この規則の改定は、2024年度定時社員総会で承認を受け、同年5月1日から施行する。</u></p>

評議員選出承認・報告の件(39名)

こん ゆうじろう
近 祐次郎 (さっぽろ内科・リウマチ膠原病クリニック)

いそじま さきこ
磯島 咲子 (昭和大学医学部)

いちむら ゆうき
市村 裕輝 (東京女子医科大学)

うつのみや まさこ
宇都宮 雅子 (東京都立多摩総合医療センター)

かわもと としお
河本 敏雄 (順天堂大学)

かわらい ゆうや
瓦井 裕也 (千葉大学医学部附属病院)

きしもと だいが
岸本 大河 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)

くにした ようすけ
國下 洋輔 (横浜南共済病院)

こにし みさこ
小西 美沙子 (東京医療センター)

こまい としひこ
駒井 俊彦 (東京大学医学部附属病院)

ささき ひろかず
佐々木 広和 (東京医科歯科大学)

すぎたに なおひろ
杉谷 直大 (東京女子医科大学)

すとう たかひと
須藤 貴仁 (群馬大学医学部附属病院)

たけなか けんち
竹中 健智 (医療法人永健会仁愛医院)

つ の ひろたか
津野 宏隆 (国立病院機構相模原病院)

の ぎ しんいち
野木 真一 (国立病院機構相模原病院)

まつえだ ゆう
松枝 佑 (北里大学医学部)

よしだ しんじ
吉田 進二 (東海大学医学部附属病院)

おおはし よしふみ
大橋 禎史 (愛知医科大学)

おおむら しんいちろう
大村 晋一郎 (社会福祉法人聖隷福祉事業団

聖隷浜松病院)

かばた たもん
加畑 多文 (金沢大学大学院)

すずき もとひろ
鈴木 基裕 (市立御前崎総合病院)

の だ けんたろう
野田 健太郎 (のだ内科・リウマチ膠原病・

ふじさわ ゆうへい
藤澤 雄平 (石川県済生会金沢病院)

訪問診療クリニック)

えたに ゆうき
惠谷 悠紀 (大阪大学大学院)

おきた やすたか
沖田 康孝 (大阪大学医学部附属病院)

かさはら あきこ
笠原 亜希子 (京都府立医科大学附属病院)

きだ たかし
木田 節 (京都府立医科大学附属病院)

きむら ゆうこ
木村 侑子 (おがわクリニック)

にい たくろう
新居 卓朗 (大阪刀根山医療センター)

にしで まさゆき
西出 真之 (大阪大学大学院)

はぎわら たかふみ
萩原 敬史 (宝塚市立病院)

ほそかわ たかし
細川 貴司 (大阪急性期・総合医療センター)

まなべ ゆうすけ
真鍋 佑資 (地域医療機能推進機構大阪病院)

わたなべ あかね
渡邊 あかね (大阪大学大学院)

なかさ ともゆき
中佐 智幸 (広島大学大学院)

なわた たかし
名和田 隆司 (山口大学医学部附属病院)

きせ たかやす
喜瀬 高庸 (那覇市立病院)

たなか あつし
田中 淳 (福岡赤十字病院)

(*所属は申請時のものを記載)

1. 名誉会員の選任の報告の件(4名)

名誉会員の内規により「名誉会員」とする。

木村 友厚 (学校法人四條畷学園四條畷学園大学)

松原 司 (松原メイフラワー病院)

久保 俊一 (京都地域医療学際研究所がくさい病院)

三森 経世 (医療法人財団康生会

たけだ 膠原病リウマチクリニック)

2. 功労会員の選任・報告の件(33名)

稲毛 康司 (一般財団法人慈愛会慈愛病院)

岩崎 剛 (医療法人恵生会恵生会病院)

大島 久二 (独立行政法人国立病院機構東京医療センター)

大西 勝憲 (おおにし内科・リウマチ科クリニック)

片山 耕 (医療法人社団

片山整形外科リウマチ科クリニック)

金粕 浩一 (高岡整志会病院)

小林 茂人 (順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院)

塩田 悦仁 (百年橋リハビリテーション病院)

菅原 正弘 (医療法人社団弘健会菅原医院)

竹本 文美 (健康医学協会附属東都クリニック)

土田 豊実 (医療法人社団豊流会ツチダクリニック)

友田 邦彦 (成尾整形外科病院)

中野 正明 (長岡中央総合病院)

檜垣 恵 (恵信甲府病院)

前田 恵治 (地方独立行政法人市立東大阪医療センター)

三ツ木 直人 (医療法人社団成仁会長田病院)

本川 哲 (諫早記念病院)

猪尾 昌之 (宇多津病院)

大澤 傑 (社会医療法人行岡医学研究会行岡病院)

大塚 栄治 (大塚内科リウマチ科クリニック)

海瀬 俊治 (一般財団法人大原総合病院)

金谷 文則 (富永草野病院)

合地 研吾 (そうべつ温泉病院)

酒井 直隆 (さかい整形外科)

柴田 孝則 (昭和大学病院)

高井 修 (医療法人財団弘慈会石橋病院)

田中 信介 (田中医院)

遠山 知香子 (医療法人積発堂富永草野病院)

長瀬 満夫 (長瀬クリニック)

野島 美久 (医療法人井上病院)

前川 宗一郎 (前川内科・リウマチ科)

松川 吉博 (鶴見大学歯学部)

簗田 清次 (自治医科大学)

第71回日本リウマチ学会会長 候補者
(2027年4月開催予定)

注：年齢は学術集会開催年の4月1日現在満66歳未満である者
【1961年(昭和36年)4月2日以後生まれの者】

□ 高柳 広 (昭和40年10月7日生)

東京大学大学院医学系研究科免疫学教授

推薦者：田中栄・渥美達也・門野夕峰・藤尾圭志・石井優

所 信：次頁掲載

略 歴： “

業 績：理事会へ提出につき省略

2024年1月

一般社団法人 日本リウマチ学会
理事長 田中良哉 先生 御侍史

推薦書

第71回日本リウマチ学会総会・学術集会（2027年4月開催予定）の会長候補として、
東京大学大学院医学系研究科免疫学 教授 高柳 広 氏を適任と考えて、ここに推薦い
たします。

（推薦者）

東京大学大学院医学系研究科整形外科学 教授

田中 栄

田中 栄 

北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学分野 教授

渥美 達也

渥美 達也 

埼玉医科大学整形外科学 教授

門野 夕峰

門野 夕峰 

東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ学 教授

藤尾 圭志

藤尾 圭志 

大阪大学大学院医学系研究科/免生命機能研究科 免疫細胞生物学 教授

石井 優

石井 優 

令和6年1月17日

第71回日本リウマチ学会総会・学術集会会長への立候補における所信

東京大学大学院医学系研究科
免疫学
教授 高柳 広

今回2027年4月開催予定の第71回日本リウマチ学会（JCR）総会・学術集会の会長に立候補いたしたく、所信を述べさせていただきます。

私は平成2年東京大学医学部医学科を卒業後、黒川高秀教授（当時）が主催する東京大学医学部整形外科学教室に入局いたしました。東京大学医学部附属病院整形外科および連携病院で整形外科診療全般を学び、平成7年に東京都老人医療センター整形外科・東京都老人研究所兼務研究員として腰原康子先生のご指導で関節リウマチや骨粗鬆症の基礎研究を開始しました。平成9年に東京大学大学院医学系研究科（外科学専攻）に入学し、田中栄先生のご指導で関節リウマチの骨破壊機構における破骨細胞分化とRANKLの意義についての研究に従事しました。平成11年から東京大学大学院医学系研究科免疫学谷口維紹教授の元でT細胞による破骨細胞制御に関する研究に取り組み、骨免疫学を開拓し、平成13年に博士（医学）を取得、その後、谷口研究室で助教に就任いたしました。平成15年より東京医科歯科大学大学院分子細胞機能学特任教授、平成17年より東京医科歯科大学大学院分子情報伝達学教授として、破骨細胞および関節リウマチ骨破壊の骨免疫学的研究を続けました。平成24年より現職の東京大学大学院医学系研究科免疫学の教授に就任してからは、骨免疫学にとどまらず、胸腺における中枢性免疫寛容のメカニズムに関する研究など、自己免疫を防ぐ根本的な免疫システムの研究に従事し、免疫学およびリウマチ学に貢献してきました。

日本リウマチ学会においては、平成25年より平成31年まで、および令和3年より令和5年まで理事を務めました。基礎研究推進委員長として、Annual Basic Research Conferenceを立ち上げ、基礎学術集会としての礎を固め、世界に誇るJCRの学術的位置を高めることに注力してきました。また、JCRのofficial journalであるModern Rheumatology編集委員として同誌の発展に貢献してまいりました。

これまでAPLAR副会長および世界骨免疫会議のオーガナイザーとしてとして国際学会の準備に従事したり、日本骨免疫学会理事長として毎年の学術集会運営に貢献してきました。主に基礎研究に従事しているため、臨床の先生方に比べ、学会における臨床的な側面や産学連携において至らない点があるかと存じますが、内科、整形外科、その他の臨床各科の先生方のご指導の元、全力で学術

集会運営を行ってまいりたいと存じます。

2027年4月開催予定の第71回日本リウマチ学会（JCR）総会・学術集会会長へ立候補させていただくにあたり、以下のような運営と企画方針を考えております。日本リウマチ学会（JCR）総会・学術集会会長を基礎の研究者が務めることは、過去の例を見ましても、平成17年西岡久寿樹先生、平成11年吉木敬先生や昭和63年京極方久先生など、数えるほどしかございません。そのような稀有な機会をいただきました場合には、最新の治療法や治療困難症例への取り組みなど臨床的な課題に応えるだけでなく、近年進展しているリウマチ性疾患の病態理解や基礎研究、近未来の新規治療など、基礎研究者ならではの視点から見た企画、基礎と臨床の融合的な企画、次世代のリーダーとなるべき若手研究者に光を当てる企画、そして、異分野融合や多分野から学ぶための企画など、プログラムに工夫をこらして魅力のある学術集会にし、学術集会参加者数増加につなげたいと考えます。

以上、立候補にあたり所信を述べさせていただきました。プログラム委員会や国際委員会のご意見を賜りながら、リウマチ診療および研究に関わるすべての方々にとって魅力のある学術集会にしたいと考えております。何卒ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2024年1月27日

略歴書

【氏名】 高柳 広
【生年月日】 昭和40(1965)年10月7日(満58歳)
【本籍】 東京都渋谷区
【勤務先】 東京大学大学院医学系研究科
免疫学 教授

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 (医学部教育研究棟10階)

TEL: 03-5841-3373 / FAX: 03-5841-3450

E-mail: takayana@m.u-tokyo.ac.jp

【略歴】

昭和59年3月 筑波大学付属駒場高校 卒業
平成2年3月 東京大学医学部医学科 卒業
平成2年7月-12月 東京大学付属病院 整形外科
平成3年1月-6月 東京都老人医療センター 麻酔科
平成3年7月-平成6年1月 東芝病院 整形外科、都立台東病院 整形外科、都立豊島病院 整形外科
平成7年2月-8年6月 東京都老人医療センター 整形外科・老人研兼務研究員
平成8年7月-9年3月 東京大学付属病院 整形外科 医員
平成13年3月 東京大学大学院 医学系研究科 博士課程 修了、医学博士
平成13年4月-6月 日本学術振興会 特別研究員 PD
平成13年6月-15年9月 東京大学大学院医学系研究科免疫学 助手
平成13年12月-19年3月 科学技術振興事業団 さきがけ研究21 (PRESTO, SORST)
平成15年10月-17年3月 東京医科歯科大学大学院 分子細胞機能学 特任教授
平成17年4月-24年4月 東京医科歯科大学大学院 分子情報伝達学 教授
平成21年10月-27年3月 科学技術振興機構 ERATO 高柳オステオネットワークプロジェクト研究総括
平成24年5月-現在 東京大学大学院医学系研究科 病因・病理学専攻 免疫学 教授
令和1年10月-現在 革新的先端研究開発支援事業 AMED-CREST 研究開発代表者

【受賞歴】

サイエンス誌 若手科学者賞 Amersham Biosciences and Science Prize for Young Scientists 2002. 11. 20
日本リウマチ学会賞 2004. 4. 15
アメリカ骨代謝学会 Fuller Albright Award 2004. 10. 2
日本学術振興会賞 2005. 3. 22
日本学士院学術奨励賞 2005. 3. 22
持田記念学術賞 2008. 10. 17
井上学術賞 2009. 2. 4
日本骨代謝学会 学術賞 2009. 7. 24
IBMS・BONE Herbert A. Fleisch Award 2011. 5. 9
日本免疫学会賞 2016. 12. 6
日本医師会医学賞 受賞 2017. 11. 2
上原賞 2019. 3. 11
日本学士院賞 2019. 6. 17

【学会】

2004年より 2008年まで APLAR 副会長
2005年より 国際骨免疫学会議 Organizing Committee
2008年より American Society for Clinical Investigation 外国人会員
2013年より 2019年まで、2021年より 2023年、日本リウマチ学会 理事
2013年より 2019年まで、2021年より現在、日本骨代謝学会 理事
2014年 第35回日本炎症・再生医学会 / 第1回日本骨免疫会議 会長
2014年より 日本骨免疫学会 理事長
2016年より 日本炎症・再生医学会 副理事長
2016年より 2018年まで、2021年より現在、日本免疫学会 理事
2019年より Association of American Physicians 外国人会員
2023年より 日本骨代謝学会 理事長

【客員教授】

平成19年7月- 現在 昭和大学 客員教授
平成22年11月- 現在 The University of Western Australia 客員教授
平成25年6月- 現在 東京医科大学 客員教授